

【報告事項 1.】 令和 4 年度事業報告の件

令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の流行拡大は2年を経過し、日本国内だけでなく、世界規模で甚大な社会的・経済活動の低下を招いた。獣医療界への影響も大きく、本会の公益事業においても中止や大幅な変更を余儀なくされ続けてきた。令和4年度初めに発見された新型コロナウイルスオミクロン株は、従来株やデルタ株に比べ、体重減少や呼吸機能の異常という病徴が顕著に低いこと等から、ウィズ／ポスト・コロナという社会的機運が高まり、全ての活動を停止・中止するのではなく、感染対策を行い共存する段階へと変化した。それに伴い、令和4年度後半の日本においては、社会・経済活動において復調・再開傾向が見られ、本会活動においても、参加型行事の開催、対面形式会議・講演会等を再開し、コロナ禍以前の活動スタイルへ戻りつつある。

本会運営体制としては、任期満了に伴う村中志朗会長の退任に伴い、令和4年6月の総会にて上野弘道新会長の新体制へ引き継がれた。上野会長就任後、本会のあるべき姿（ヴィジョン）を全理事と協議し、意識共有を図る会議が開催され、活発な議論がなされた。新体制が始動した令和4年度においては、継続事業の維持を行いつつ、組織力向上につながるよう、時流にそった事業活動や会員制度を目指し、会務運営においても会費、福利厚生制度を見直し、さらなる組織力強化のために邁進した。

人と動物の健康と環境の保全を目的としたワンヘルスは、本会が取り組む公衆衛生対策事業や、動物福祉に係る事業を円滑に進める上で、非常に有用であると考えられる。先行している福岡県ワンヘルス推進基本条例を参考に、東京都においても同様の条例が制定されるよう活動を開始した。具体的には、令和4年9月、小池百合子都知事に対し東京版ワンヘルス条例制定について要望した。令和4年11月には、東京都医師会会長及び同会ワンヘルス役員と本会役員とで、東京でのワンヘルス条例制定の為のグランドデザインについて協議した。令和5年1月には、東京都補助事業（獣医公衆衛生学術振興事業）の一環として、公益社団法人福岡県獣医師会草場治雄会長を講演者として招き、ワンヘルス講演会を開催した。併せてワンヘルスについての小冊子作成を行い、啓発活動を行った。

防災対策としては、令和5年1月22日にVMAT（Veterinary Medical Assistant Team＝獣医療支援チーム）の正式な立ち上げを行った。VMATとは、獣医師、愛玩動物看護師、看護助手、トリマー、動物トレーナーなど1チーム4－5名で構成された大規模災害や多くの傷病動物が発生した事故などの現場に急性期に活動できる機能を持った専門的な訓練を受けた動物医療チームのことである。災害時には人命救助を妨げない範囲で災害状況の情報収集を図るとともに、初期の動物保護や救出にあたり、避難所やシェルターにおける動物の健康管理、人と動物の関係を円滑にすることを担う。併せて、災害時の際の指針となる東京都獣医師会の防災マニュアル「東獣災害対策ガイドライン」については、VMAT検討委員会で引き続き推敲していくこととなった。

公益目的事業としては、例年実施してきた獣医療に関する調査研究事業、小動物地域獣医療の充実、狂犬病等の人と動物の共通感染症の都民生活への発生予防・まん延防止、学校飼育動物を通じ

て都民への動物愛護精神啓発と児童の健全育成を支援、動物の適正飼養に関する知識の普及啓発、家畜衛生対策による都民の食の安全の確保、動物のいのち救済基金等を活用した、人と動物のより良い共生社会の構築による動物福祉の向上、介助動物の保健衛生の向上及びその普及啓発、災害時の動物支援対策、小笠原諸島や御蔵島等の希少種や繁殖地の保護保全、傷病野生鳥獣の保護治療ならびに調査、生命倫理の高揚を図る事業を行った。

中でも、小笠原自然環境保護活動事業では、派遣診療が6年ぶりに実施された。本部からは、B会員獣医師1名、会員病院所属動物看護助手1名、東獣担当理事（高橋副会長、入交理事）2名の計4名を小笠原に派遣した。派遣団は犬猫の不妊手術、島民への適正飼育指導を目的としたしつけ教室の開催等を行い、犬猫の不妊手術については、父島の動物対処室にて8頭の不妊手術（イヌ6頭（オス2頭、メス4頭）ネコ2頭（オス1頭、メス1頭））を実施した。しつけ教室には、母島6家族（犬5頭、猫2頭）父島13家族（犬15頭、猫1頭）が参加した。小笠原自然環境保護活動事業としてのノネコの保護活動については、実績も1,000頭を超え、多くの取材を受け、メディア（新聞、インターネット）にも掲載をされた。

学校飼育動物に関わる訪問活動等の児童と対面して行う活動については、オミクロン株の流行により児童への感染が増えた結果、計画していた対面での授業が実施できないケースも生じたが、オンライン講義の活用等、感染対策を講じながら事業の遂行に努めた。

東京都は、令和2年度より（公財）日本財団が船の科学館敷地内（お台場）に整備した施設を、COVID-19の陽性患者で入院治療の必要がない軽症や無症状の方々を受け入れるペット同伴者用の療養施設として運営していた。本会は、入所者が同行した犬・猫・ウサギ・ハムスターの健康相談などの飼育支援と往診対応事業を受託し、品川支部による支援及び本部による緊急時対応のため24時間の電話対応を継続していた。新型コロナ対策の変更に伴い、こちらの事業は令和4年度末をもって終了となった。

本会の危機管理室感染症対策セクションにおいては、昨年に引き続きCOVID-19に関する情報を適宜提供した。

小池東京都知事のヒアリングにおいては、ワンヘルス条例の制定、傷病野生鳥獣診療事業における費用弁済の適正化、本会が長年取り組んできた小笠原自然環境保護事業におけるノネコ捕獲・譲渡に係る費用弁済の適正化等を申し入れた。その結果、ノネコ捕獲・譲渡にかかる事業に対しては、今までの活動と実績が認められ、予算増額となり、令和3年度までは事業委託費は預かり日数にかかわらず1頭につき9,000円であったが、令和4年度には13,000円、令和5年度には67,000円となることが決定した。

令和4年度後半には日本における社会活動が復調傾向となったことは好ましいことであったが、一方で、世界における紛争等の様々な要因による物価高騰があり、消費者の生活を直撃し、獣医療・ペット業界の対する今後の影響も否めない。本会としては、社会状況を注視しつつ、組織率の向上をはかり、会員と共に獣医療における課題を解決していくこととした。

I 会 務 報 告

1. 役職員の人事

(1) 東京都庁関係：

村中志朗 前会長：東京都動物愛護管理審議会委員（2020年4月～2022年3月）

高橋恒彦 副会長：東京都自然環境保全審議会委員（2021年7月～2023年6月）

鳥獣部会委員（2021年7月～2023年6月）

東京都外来鳥獣（アライグマ・ハクビシン）防除対策検討委員会委員
（2019年7月～2024年3月）

佐藤 克 危機管理室感染症セクション長：東京都動物由来感染症検討会委員
（2022年4月～2023年2月）

高藤典靖 理事：東京都動物由来感染症検討会委員（2023年2月～2024年3月）

鈴木 博 理事：東京都野生イノシシCSF対策協議会委員（2019年1月～）

平井潤子 事務局長：東京都動物愛護管理審議会小委員会委員（2020年7月～2022年6月）

平井潤子 事務局長：東京都動物愛護推進協議会委員（2021年3月～2024年2月）

(2) 日本獣医師会関係：

村中志朗 前会長：日本獣医師会副会長（2021年6月～2023年6月）

上野弘道 会長：東京地区代表理事（2021年6月～2023年6月）

小動物臨床部会 小動物臨床委員会（2021年6月～2023年6月）

小林元郎 前副会長：動物福祉・愛護委員会（2021年6月～2023年6月）

VMAT 養成カリキュラム等検討小委員会委員

中川清志 副会長：動物福祉・愛護委員会（2021年6月～2023年6月）

学校動物飼育支援対策検討委員会委員

職域総合部会 総務委員会委員（2021年6月～2023年6月）

高橋恒彦 副会長：動物福祉・愛護委員会委員（2021年6月～2023年6月）

新井敏郎 監事：獣医学術部会 学術・教育・研究委員会委員（2021年6月～2023年6月）

鈴木 博 理事：産業動物臨床部会 産業動物臨床・家畜共済委員会委員（2021年6月～2023年6月）

(3) 株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

小松泰史 監事：獣医師賠償責任保険中央審議会委員（2021年6月～2023年6月）

(4) 関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

村中志朗 前会長：東京地区代表理事（2021年4月～2022年6月）

上野弘道 会長：東京地区代表理事（2022年6月～2023年3月）

中川清志 副会長：監事（2021年7月～2023年3月）

(5) その他：

村中志朗 前会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会委員
(2019年6月～2022年6月)

上野弘道 会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会委員
(2022年6月～)

高橋恒彦 副会長：小笠原村愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する審議会委員
(2021年11月～2024年10月)

高橋恒彦 副会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事
(2018年5月～)

入交眞巳 理事：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事
(2020年4月～)

中川清志 副会長：簡易裁判所調定委員(2021年4月～2023年3月)

鈴木 博 理事：東京都農業共済組合損害評価会委員(2022年4月～2025年3月)

(7) 事務局人事

事務局員1名が2021年2月から産休・育休を取得していたが、2022年4月21日から復職した。

2. 本会の活動状況

(1) 会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。また、COVID-19の流行対策により、定時総会、定例理事会、委員会等を対面形式、オンライン併用のハイブリッド形式、書面形式にて開催した。

ア. 定時総会：第11回6/12

イ. 定例理事会：第1回5/9、第2回7/26、第3回10/4、第4回12/16、第5回3/17

ウ. 臨時理事会：6/12

エ. 監査会：第1回<令和2年度全期決算監査>5/6、第2回中間監査会12/6

オ. 会務運営会議：第1回4/7、第2回7/25、第3回8/26、第4回9/20、第5回12/15、第6回2/21、第7回3/15

カ. 地域職域合同支部長会：第1回6/2

キ. 支部会計説明会：個別の問い合わせに対応

ク. 倫理委員会：第1回8/1

ケ. 役員候補者選任委員会：開催していない

コ. 産業動物委員会：第1回3/24

サ. 獣医公衆衛生委員会：第1回3/30

シ. 都補助 人と動物の共通感染症対策検討委員会：第1回11/16、第2回1/19、第3回1/22

ス. 都委託 獣医療広告適正化検討委員会：第1回11/17、第2回1/23

セ. 学校飼育動物対策委員会：第1回11/20、第2回1/29

ソ. 危機管理・防災関係：第1回8/19、第2回11/1、第3回12/5、第4回1/22

タ. 広報委員会：第1回7/25、第2回10/31

チ. 東京地区三学会対策委員会：第1回5/13

ツ. 表彰審査委員会：第1回 4/28

テ. 狂犬病対策委員会：第1回 11/2、第2回 12/12、第3回 1/30、第4回 3/5

ト. 関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会：第1回 4/17、第2回 7/3、第3回 2/26

ナ. 東京 VMAT 検討委員会：第1回 12/5、第2回 1/22

(2) その他関係機関、他団体などの会議、委員会等の活動状況：

ア. 公益認定関係：

令和4年度事業報告及び決算報告の電子申請 (6/30)

令和5年度事業計画及び予算の電子申請 (3/31)

イ. 都庁関係：

東京都知事要請 COVID-19 罹患飼い主からの飼育動物の預かり対応

品川支部の協力による東京都がお台場に設置したペット同伴可宿泊療養施設（船の科学館）でのペット飼育診療支援を令和2年1月～令和5年3月末まで、2年2カ月にわたり実施してきたが、3月31日をもって終了。

都知事令和5年度予算要望 (10/28)

ウ. 日獣関係：

第79回 通常総会 明治記念館 (6/22)

令和4年度全国獣医師会事務・事業推進会議 オンライン形式(7/15)

2022 動物感謝デー in JAPAN 恩賜上野公園不忍池 (10/1)

第21回 FAVA（アジア獣医師会連合会）大会 福岡シーホーク (11/11～13)

FAVA(アジア獣医師会連合)会長就任祝賀会 明治記念館 (2/20)

エ. 関獣連関係：

第1回関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会 (4/17)

第2回関東・東京合同地区獣医師会理事会・幹事会 (7/3)

第3回関東・東京合同地区獣医師会理事会・監査会 (2/26)

令和4年度関東・東京合同地区獣医師大会 三学会 海老名レンブラントホテル(9/4)

令和4年度獣医事功績者表彰候補者は以下の通り。

< A会員2名 >

塩田真(杉並支部)、松本孝幸(世田谷支部)

< B会員8名 >

錦見勝之(共済支部)、阿部英雄(動物薬事支部)、澤田拓士(日本獣医生命科学大学支部)、朝日光久(かんらん支部)、荻谷和廣(江東支部)、宮田芳枝(葛飾支部)、岩城隆昌(生物医学支部)、伊藤喜久治(東京大学支部)

東京都獣医師会からの演題申込は以下の通り。

【獣医公衆衛生学会】

なし

【産業動物獣医学会】

①川角浩(日本獣医生命科学大学)

慢性関節炎発症の競技馬に対するケルセチンサプリメントの効能

【小動物獣医学会】

①川角浩(日本獣医生命科学大学)

しいたけ(Lentinula edodes) パウダーの健康犬のエネルギー代謝に対する効能

②雲野祥平（オールハート動物リファーマルセンター）

犬の特発性肝葉捻転の3症例

③森淳和（ONE for Animals 東京）

観血的整復を行ったトイ・プードルの肩甲骨背側脱臼症例

④中條哲也（ONE for Animals 東京）

内側・内背側方向の足根中足関節亜脱臼に対して内側部に適応したロッキングプレートを用いて安定化を行なった小型犬の2症例

⑤藤井聖久（くすの木動物病院 世田谷どうぶつ整形外科センター）

脛骨高平部水平化骨切り術（TPLO）後に発生したピボットシフト症例の評価について

⑥平井潤子（東京都獣医師会）

欧州の事例に見る動物保護施設の設計基準に関する考察

⑦田中祥代（日本獣医生命科学大学）

日獣大における下垂体性副腎皮質機能亢進症罹患犬 43 頭に対する経蝶形骨下垂体切除術の成績

⑧島田昌和（日本獣医生命科学大学）

脛骨高平部水平化骨切り術または脛骨頭側楔状骨切り術を施術した前十字靭帯断裂罹患小型犬 34 頭 45 膝関節の術後成績

⑨宗像俊太郎（日本獣医生命科学大学・あさか台動物病院）

凍結同種保存骨移植を施した犬の橈尺骨骨折癒合不全 30 肢における術後成績の検討：1994 年～2019 年

発表演題の内、森 淳和先生（ONE for Animals 東京）の「観血的整復を行ったトイ・プードルの肩甲骨背側脱臼症例」が、学術奨励賞を受賞した。

オ. 政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会：広島（10/23）

カ. 他府県獣医師会：

COVID-19 関連情報の提供（HP 特設ページの公開）を継続

「SFTS 疑いネコ診療簡易マニュアル（冊子・動画）」の提供（神奈川県獣医師会）

キ. 家畜衛生防疫対策事業関係：

公益社団法人中央畜産会：

第2回中央打合せ会議（鈴木理事出席）（2/4）

その他畜産関係：

家畜衛生防疫対策委員会（3/24）

第63回関東牛肉牛枝肉共進会（関東肥育牛振興協会）賞状・賞品交付（9/30）

ク. その他：

動物愛護週間中央行事（屋内行事）への参加（9/24）

（3）国際交流関係：

COVID-19 の流行対策により、第13回アジア小動物獣医師大会（FASAVA）2022 へは参加を見合わせた。

3. 催事、学術集会等の実施状況

ア. 学会、講習会等事業

学校獣医師養成講座 令和4年度事業実施報告

5. 学校動物飼育対策推進事業 イ. 実施報告参照

イ. 支部学術講習会の計画等：※日獣生涯研修申請分

令和4年度はCOVID-19の流行対策により、開催せず。

4. 本会が後援等を行ったイベント・キャンペーン・講演会

【後援】

- ・全国学校飼育動物研究会「第24回全国学校飼育動物研究大会」東京大学弥生講堂（9/4）
- ・野生動物救護獣医師協会「ヒナを拾わないで」キャンペーン（令和4年4月-令和5年3月）
- ・獣医系大学間獣医学教育支援機構への協力
- ・JBVP 第24回日本臨床獣医学フォーラム オンライン（9/22-10/31）
- ・狂犬病臨床研究会「世界狂犬病デー2022 in JAPAN みんなで話そう、狂犬病予防注射」 オンライン（10/30）
- ・名古屋市獣医師会動物病院スタッフ応援サイト「ippo」
- ・JAHA 獣医師継続教育セミナー第171回 JAHA 国際セミナー「Dr. Johnson に教わる『The 呼吸器病学』」（12/2-4）
- ・JAHA 獣医師継続教育セミナー第172回 JAHA 国際セミナー「糖尿病・副腎疾患・ミネラルの異常の論理的アプローチと管理」Dr. David Church（3/1）東京会場 飯田橋レインボービル（3/5）大阪会場 KITENA 新大阪

【共催】

明治安田生命との包括連携協定「人と動物の共生を通じた健康増進・地域創生」によるイベントを共催

- ・10月8日（日）味の素スタジアムで開催されたFC東京『NO PLANET, NO TOKYO』にてブース出展し、本会が取り組む小笠原自然環境保護事業の啓発活動を行った。また、FC東京の試合においては、本会が仲介し小池都知事からの動物愛護に関するショートメッセージをサッカースタジアムの大型スクリーンで放映した。
- ・11月26日（土）と27日（日）昭和記念公園で開催された「しっぽフェスタ」にブース出展し、会員及び会員病院に勤務する動物看護師の協力を得て、キッズ獣医師体験企画にて、獣医師の仕事紹介とペットの健康管理（適正飼養）の啓発を実施した。

5. 表彰など

（1）公益社団法人東京都獣医師会会長表彰状について

なし

6. その他

（1）賛助会員ミーティング

令和4年6月17日（金）午後5時から、令和4年度第1回賛助会員ミーティングが新宿京王プラザホテルにおいて開催された。2年ぶりの対面形式での開催となり、賛助会員40社

(69 名) が出席した。主な内容は、新役員の挨拶とポストコロナにおける獣医療業界について村中前会長から講演があった。その後、懇親会が開催された。第 2 回賛助会員ミーティングは、令和 5 年 2 月 14 日(火) 午後 3 時より、同じく新宿京王プラザホテルにおいて開催された。出席者は賛助会員 37 社(61 名) と、役員(上野弘道会長、高橋恒彦副会長、中川清志副会長、入交眞巳理事、佐藤貴紀理事、鈴木博理事、高藤典靖理事、宮下めぐみ理事) が出席し、「これからの獣医療業界の課題」について、10 グループに分かれてディスカッションを行い、課題を抽出した。抽出された 4 つの課題(1. 飼育頭数の減少、2. 獣医療の透明性、3. 働きやすい獣医療環境、4. 社会におけるペットの価値向上) について、解決に向け賛助会員と協同し、より良い人とペットの共生社会を作れるよう活動していくこととした。

(2) 規程類の改定

- 1) 電子取引の取引情報の訂正及び削除の防止に関する事務処理規程の制定(第 3 回理事会)
- 2) 賛助会員規程の改定(第 3 回理事会)
- 3) 理事の報酬に関する規程の改定(第 5 回理事会)
- 4) 旅費規程の改定(第 5 回理事会)
- 5) 福利厚生規程の改定(第 5 回理事会)

(3) その他

令和 4 年 6 月 1 日に施行された改正動物愛護管理法に基づく、販売用犬猫へのマイクロチップ装着・義務化について、令和 3 年 6 月に公益社団法人日本獣医師会が犬猫のマイクロチップの指定登録機関に指定されてから、環境省と日本獣医師会とでシステム構築、登録制度のしくみについて協議を重ねていた。しかし、情報検索等における獣医師の関与、狂犬病予防法の特例(ワンストップサービス)の実効性の確保、登録手数料の改定に関する要望などに関しては、環境省から了承を得られない状況にもかかわらず、令和 3 年 12 月には動物愛護及び管理に関する法律施行規則の一部を改正する省令案等に対する意見の募集(パブリックコメント)が開始されたのであった。

また、当初から懸念されていた、動物病院が担っていた畜犬の代行登録については、環境省から行政書士法に触れるのではとの見解が示され、日本獣医師会は令和 4 年 3 月、日本行政書士連合会と面談し、一定の条件下であれば、獣医師による代行登録は承認するという回答は得られていた。

しかし、獣医師によるデータベースの情報検索の実現については、個人情報保護の壁もあり、環境省は容認せず、また AIPO のデータを包括したデータベースの一本化も図られず、令和 4 年 6 月 1 日の改正動物愛護管理法の施行、法定登録開始をむかえることとなった。運用説明会は、直前の 5 月中旬に環境省と日本獣医師会との共催で開催されたが、内容も実施時期も十分とは言えず、施行された令和 4 年 6 月 1 日の直後は、本会にも獣医師から多くの問い合わせがあった。コールセンターに電話がつかないという基本的なことから、運用ルールについて、また AIPO との併用に伴う飼い主への説明について等、ご指摘並びに課題に対する意見があがり、十分に検討された現場に即した法定登録の導入ではなかったことが露呈されてしまっていた。

本会においては、会員から届くマイクロチップの装着並びに法定登録に対する課題を日本獣医師会に伝え、その解決策の提示並びに情報公開に努め、混乱収束するよう努めた。しかし、抜本的な課題は解決されておらず、問題が棚上げされている感が否めない状況である。

※施行細則の一部改正が令和5年6月1日行われ、獣医師による負傷動物の飼育者検索が可能となる。負傷動物かどうかの判断は診察した獣医師の判断による。

7. 本会組織の会員状況

令和4年度末会員数は、A会員名603名、B会員446名、計1,049名である。

年度内の入会は33名、退会57名（逝去6名含）、長寿会員54名のうち、会費免除高齢会員51名であった。（会員の内訳は表参照）

地域	A会員			B会員			計		
支部	4年度 会員数	3年度 会員数	増減	4年度 会員数	3年度 会員数	増減	4年度 会員数	3年度 会員数	増減
中 央	28	27	1	11	12	△ 1	39	39	0
文 京	14	16	△ 2	2	4	△ 2	16	20	△ 4
新 宿	17	16	1	3	6	△ 3	20	22	△ 2
中 野	14	16	△ 2	1	2	△ 1	15	18	△ 3
杉 並	38	39	△ 1	13	9	4	51	48	3
世田谷	57	59	△ 2	39	38	1	96	97	△ 1
渋谷	8	7	1	1	1	0	9	8	1
目 黒	20	25	△ 5	8	6	2	28	31	△ 3
大 田	40	42	△ 2	12	17	△ 5	52	59	△ 7
品 川	18	20	△ 2	4	4	0	22	24	△ 2
勝 島	7	9	△ 2	3	3	0	10	12	△ 2
江 東	21	20	1	0	4	△ 4	21	24	△ 3
墨 田	17	18	△ 1	2	1	1	19	19	0
城 北	20	18	2	0	1	△ 1	20	19	1
葛 飾	20	20	0	1	1	0	21	21	0
江戸川	21	21	0	7	7	0	28	28	0
足 立	16	17	△ 1	1	0	1	17	17	0
北	11	13	△ 2	0	0	0	11	13	△ 2
豊 島	14	13	1	1	1	0	15	14	1
板 橋	12	17	△ 5	2	3	△ 1	14	20	△ 6
練 馬	33	36	△ 3	6	7	△ 1	39	43	△ 4
武蔵野三鷹	10	13	△ 3	2	2	0	12	15	△ 3
北多摩	32	34	△ 2	3	3	0	35	37	△ 2
多摩東	23	24	△ 1	1	3	△ 2	24	27	△ 3
南多摩	13	13	0	3	3	0	16	16	0
八王子	19	20	△ 1	0	1	△ 1	19	21	△ 2
町 田	20	18	2	1	1	0	21	19	2
多摩西	40	40	0	4	4	0	44	44	0
小 計	603	631	△ 28	131	144	△ 13	734	775	△ 41

職域	B会員		
支部	4年度 会員数	3年度 会員数	増減
農水省	2	3	△ 1
動薬検	0	0	0
都産労	7	7	0
都公衆衛生	23	26	△ 3
東 大	15	15	0
農工大	13	16	△ 3
日獣大	30	31	△ 1
生物医学	18	22	△ 4
日生研	5	7	△ 2
松 研	2	2	0
中央競馬	3	3	0
共済	10	10	0
動物薬事	29	34	△ 5
かんらん	158	131	27
小 計	315	307	8
B会員計	446	451	△ 5

令和4年度 会員数	A会員	B会員	合計
	603	446	1049

東京都獣医師会総会員数			
	R4年度	R3年度	増減
総計	1049	1082	△ 33

Ⅱ 事業実施報告

I. 公益目的事業

1. 都民公開シンポジウム開催事業

COVID-19 対策により、令和4年度は実施していない。

2. 狂犬病予防対策推進事業

狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業を実施した。

令和4年度集合注射における接種頭数は56,712頭の実績となった。

令和3年度比 105.7%、3,067頭増加 / 令和2年度比150.9% 19,125頭増加

令和元年度比 67.4% 27,435頭減少（コロナ感染拡大以前）

COVID-19蔓延により、一部基礎自治体＝市区町村は昨年度に引き続き集合注射事業を中止したことから、令和3年度と比較すると接種頭数は若干の回復にとどまった。このような状況下ではあるが、狂犬病予防に関する知識の普及・啓発事業を推進し、狂犬病の発生予防を図り、公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めるために以下の事業を行った。

2-ア. 都民に対する狂犬病に関するの情報提供と周知；

平成26年度に本会が制作した動画「東京を守ろう」を引き続きインターネット上で公開し、狂犬病予防注射の必要性について啓発活動を継続実施した。

2-イ. 犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

勝島支部を除く27地域支部の動物診療施設において狂犬病に関するポスターを活用して犬の飼育者に対し狂犬病予防を啓発するとともに、咬傷事故防止のための適正飼育を指導し、狂犬病予防法の遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に着目した啓発活動に取り組んだ。また、狂犬病支部担当者会議において、葛飾支部による集合注射実施時に合わせて行った飼い主への普及啓発の取り組み事例を紹介するなどし、今後の啓発活動における参考情報共有の場を設けた。

2-ウ. 獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病支部担当者会議が、令和5年3月5日（日）午後2時30分より、ハイブリッド形式（新青山ビル2階の会議室での対面とZoom参加）にて開催された。各支部長又は狂犬病担当者（対面参加14名、Zoom参加23名 計37名）が参加した。会議では、東京都獣医師会発行「犬の咬傷事故並びに狂犬病発症をうたがった場合の対応マニュアル」の改定案について（中川副会長）、狂犬病予防集合注射の各支部での在り方について（町田支部高藤理事、葛飾支部宮田支部長）、集合注射のありかたについて（中川副会長）のプレゼンテーションと共に、業務委託費に関する行政との交渉の進め方、狂犬病発生時に必要となるワクチンの備蓄、獣医師自身の狂犬病ワクチン接種について話し合われた。

2-エ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

令和2年度、3年度に続き、令和4年度においてもCOVID-19対策により集合注射を中止する自治体があったことから、27の地域支部のうち狂犬病予防定期集合注射を実施したのは、21支部であった（令和3年度狂犬病集合注射実施支部は19支部）。その他支部においても集合注射以外における予防接種実施時に、地方自治法施行令第158条の規定に基づき行政事務を受託することにより、動物病院での注射済票交付を実施、および法による犬の登録受付けなどして、狂犬病予防注射の接種率向上および飼い犬の登録率を向上させるよう努めた。

本部では、獣医師賠償責任保険「狂犬病予防注射事業賠償契約」の傷害見舞費用保険の補償が3タイプとなったことにより、地域支部長に希望プランについてのアンケートを実施した。その結果、例年と変わらない傷害見舞用保険5万円(1事故当たり)/30万円（期間中）の補償である獣医師一人当たり540円の保険への加入希望が過半数を占め、同プランの保険への継続加入となった。その後、被保険者を取りまとめ、狂犬病予防定期集合注射事業の実施を補佐した。

また、狂犬病予防注射離島対策事業として、島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

2-オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体価調査；

令和4年度は実施せず。

3. 災害時の動物救護支援に関する事業

本会内には災害、人と動物の共通感染症発生時の初動活動に即時対応可能な危機管理室が設置されている。各セクションでは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

3-ア. 危機管理・災害対策事業；

東京都との協定に基づき、災害時における被災動物の救護活動（保護、預かり、応急処置及び情報提供）を効果的かつ速やかに実施するために、都が開催する防災担当者会議等にオンラインや書面にて参加した他、平時においては、有事を想定して、安否確認システムにより9月1日と3月11日に会員の安否確認訓練を実施した。安否確認メール未達対策のため毎月1日にテスト送信を実施した。また、本会のペット災害対策事業への遺贈により、災害発生時に基礎自治体との防災協定に基づき活動する場合等に装着する身分表示用の腕章を、A会員と希望するB会員に配布した。

11月1日(火)、防災ブロック長会議がZoomにて開催され、本部からの防災関連イベントに関する報告と、安否確認システムの登録状況など課題の説明、各ブロックの近況報告等が行われた。VMAT検討委員会は、12月5日（月）にZoomにて開催された。1月22日（日）には、都市センターホテルにて「東京VMAT」の立ち上げに伴う任命式が開催された。「東京VMAT」は本会の危機管理室が定めるVMAT研修プログラムの修了者により構成され、本会会員または会員が開設する動物診療施設勤務者などが受講でき、研修プログラム修了者のうち、希望する者が「東京VMAT隊員」に登録される。任命式には第一期受任者のうち12名が出席し、上野危機管理室室長から、「災害時は自助、共助、公助、そして互助の精神が大切である。お互いに助け合い、万が一の災害発生に備え、獣医師会全体として日頃からの協力体制づくりが重要である」旨の挨拶があり、磯防災セクション長からの挨拶、藤本情報統括からのVMAT解説（講義）に続き、質疑応答が行われた。

3 イ．危機管理・感染症対策事業；

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ対策情報や発生情報等を都度発信し、公衆衛生対策の向上及び公共の健康福祉増進に寄与した。COVID-19については、マスコミ等からの問い合わせに対し正しい情報発信に努めた。

このほか、感染症対策セクションより以下の情報について支部長を経由した連絡、及び本会HPへ公開し、正しい情報の周知に努めた。

・4/6HP公開 「新型コロナウイルス感染症 ヒトと動物の感染予防対策について」2022年4月1日現在(ペットを預かる際の留意点緩和)

・8/6HP公開 「新型コロナウイルス感染症に罹った方が飼育しているペットについて」2022年8月現在

本会で作成した「SFTS疑いネコ診療簡易マニュアル」については、地方獣医師会からの引用許可申請等により、提供した。

4．獣医公衆衛生対策推進事業

4 - ア．動物由来感染症モニタリング事業

東京都の委託を受け、人と動物の共通感染症の定点把握を継続実施した。

①皮膚糸状菌症 ②疥癬 ③回虫症 ④コリネバクテリウム感染症 ⑤犬ブルセラ症(犬のみ) ⑥トキソプラズマ症(猫のみ) については、都内全域を対象に地理的な偏差が出ないように設定した会員病院20施設において来院する動物から検査サンプルを採取した。

結果として令和4年度においては、20病院の診療頭数(犬74,773頭、猫39,571頭)の内、①皮膚糸状菌症(犬11頭、猫20頭)、②疥癬(犬2頭、猫2頭)、③回虫症(犬1頭、猫21頭)、④コリネバクテリウム感染症(犬1頭、猫0頭)、⑤犬ブルセラ症(犬のみ・0頭)、⑥トキソプラズマ症(猫のみ・0頭)の合計 犬15頭、猫43頭の陽性検体が確認された。

また、腸管出血性大腸菌(EHEC)、薬剤耐性大腸菌、SFTSウイルスについては、協力病院の内、6病院によりサンプリングを行った。SFTSウイルスについては、6病院6検体すべて陰性であった。検査に当たっては富士フイルムVETシステムズ株式会社と東京都健康安全研究センターの協力を得た。

4 イ．人と動物の共通感染症及び食の安全対策事業

所轄官庁から発信される人と動物の共通感染症及び食の安全対策に関わる公示・通達等を、本会ウェブサイト、東獣ジャーナルで広報した。

また、本会HPに「人と動物の共通感染症ガイドライン Web版」を掲載している他、ジャーナル及び会員への一斉メール配信などにより情報提供を行い、獣医療従事者に注意喚起するなどし、広く都民に対し「人と動物の共通感染症」に関する知識の普及啓発を行った。

東京都補助事業「獣医公衆衛生学術振興事業」により、令和2年度に作成した冊子「SFTS疑いネコの診療簡易マニュアル」と令和3年度に制作した「SFTS疑いネコ診療マニュアル」動画版を本会HP上において引き続き掲載した。

5. 学校動物飼育対策推進事業

COVID-19対策に留意しつつ、小学校学習指導要領に則り実施される教育施設での動物飼育を通して、児童への情操教育や科学教育、及び動物愛護精神の育成を支援した。

また人と動物の共通感染症に対する予防および啓発活動を通して当該事業が安全に実施されるよう努め、以下の事業を行った。

5ーア. 学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学習指導要領解説に示された通り、児童が学校飼育動物に心を寄せ、愛着を持って接するとともに、生命あるものとして世話することができる飼育活動の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を、支部委託事業として都内全域において行った。

令和4年度は令和3年度での経験を活かし、COVID-19対策として手指消毒やマスク、フェイスシールドを用いたり、オンラインを利用した講義に変更したりすることにより、動物由来の感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導等、児童や教員に対し学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。

また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる情報提供に努めた。

5ーイ. 学校獣医師養成講座；

全国の担当者と意見交換を行い、知識などの向上のため日本獣医師会の動物福祉・愛護部会 個別委員会学校動物飼育支援対策検討委員会及び動物福祉・愛護部会 学校動物飼育支援対策検討委員会に参加した。

獣医師向け「学校飼育動物 獣医師養成講座」を会場又はオンライン参加形式で開催し、全3回受講した獣医師91名（本会会員29名、非会員57名、学生5名）の内、希望者4名に対して修了証を発行した。

【内 容】

開催日：第1回8月21日（日）、第2回11月20日（日）、第3回1月29日（日）

第1回 2022年8月22日～28日まで動画配信（VetScope）

2022年8月21日（日）14：30～16：30

オンラインLive開催 講師への質疑応答、情報交換会

演題1：「飼育と触れ合いの活動について」

講 師：林禎久（中野区立美鳩小学校校長動推進室 地域学校協働事業係）

演題2：「ウサギについて」

講 師：田向健一（東京都獣医師会 大田支部 田園調布動物病院）

事前動画配信視聴者数89名

内訳：当日会場参加者8名、当日オンライン参加者14名、見逃し配信視聴者数35名

第2回 2022年11月21日～27日まで動画配信（VetScope）

2022年11月20日（日）14：30～16：30

オンラインLive開催 講師への質疑応答、情報交換会

演題1：「地域連携を通じた学校動物飼育活動の充実と豊かな心の育成」

講 師：山縣弘典（西東京市教育委員会教育部教育指導課長）

演題2：「チャボについて」

講 師：小嶋篤史（東京都獣医師会世田谷支部 鳥と小動物の病院リトルバード）

事前動画配信視聴者数97名

内訳：当日会場参加者 13名、当日オンライン参加者18名、見逃し配信視聴者数 68名

第3回 2023年1月30日～2月5日まで動画配信（VetScope）

2023年1月29日（日）14：30～16：30

情報交換会

アドバイザー

田向健一（東京都獣医師会大田支部 田園調布動物病院）

小嶋篤史（東京都獣医師会世田谷支部 鳥と小動物の病院リトルバード）

事前動画配信視聴者数 115名

内訳：当日会場参加者13名、当日オンライン参加者23名、見逃し配信視聴者数27名

5 ウ. 動物飼育作文コンクール；

例年、支部事業として児童の心と身体の健全な育成のために、動物飼育作文コンクールを行い、その優秀作品を表彰してきたが、令和4年度においては、COVID-19 拡大防止措置により中止された。

5 エ. 小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、該当する地域支部の会員の協力を得て、以下の5つの推進校において、生徒と担当教師を対象とし、①衛生管理指導 ②体験活動事業 ③研修会事業 ④動物由来感染症発生時対応事業 ⑤埋葬事業を実施した。

また、事業の適正な推進と発展のため、課題の抽出や今後の対策の検討を行うとともに、活動報告会を開催し今後の継続的な取り組みのための礎とした。事業が継続されることにより、各学校ともに学習指導要領に則った飼育（1、2年生による継続飼育）実践方法の研究がなされるようになった。

①世田谷区立松沢小学校ウサギ3羽（1年4学級137人・2年5学級150人）

②多摩市立連光寺小学校ヤギ2頭・ウサギ2羽（1年2学級64人・2年2学級69人）

③墨田区立東吾嬬小学校ウサギ1羽（1年2学級49人・2年2学級49人）

④中野区立美鳩小学校モルモット1匹（1年4学級148人・2年4学級130人）

⑤青梅市立河辺小学校ウサギ2羽・カメ（1年2学級67人・2年2学級58人）

5 オ. 学校飼育動物埋葬に関わる事業；

児童の健康と安全を守るため、144校・175件の学校飼育動物の死亡に際して担当動物病院で検案実施後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との間で締結した「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」に基づき適切な埋葬をおこなった。

以上のことにより学校飼育動物の死亡に際し児童の心身の安全を確保し、学校及び児童が身をもって生命の尊さを感じる事ができるよう支援した。

6. 動物愛護啓発事業

6-ア. 催事における啓発事業；

日本獣医師会が主催する 2022 動物感謝デーinJAPAN “World Veterinary Day “は、10 月 1 日（土）に上野恩賜公園にて開催された。本会は動物救護所と併せ、小笠原自然環境保護事業の PR と、飼育者及びペットの災害対策の啓発、『動物のいのち救済基金』募金活動等を行った。ステージイベントにおいては、上野弘道会長と入交眞巳理事による「猫・よもやまトークセッション ニャンタレスティングのすすめ！」というタイトルで、首都東京に属する世界自然遺産「小笠原」の在来種を守りつつ、島に持ち込まれた猫と人との共生をサポートするために、東京都獣医師会の獣医師有志が、ノネコの捕獲・搬送・馴化・譲渡を行っていることと、そして猫と暮らす面白さ・猫を観察することで得られる幸せについてのトークセッションをおこなった。

公益社団法人東京都獣医師会世田谷支部と世田谷区が主催する「世田谷区動物フェスティバル」、「世田谷フラ・フェスティバル」は、COVID-19 拡大防止措置により、中止となった。

適正飼育支援の一環として 15 歳以上の犬猫を対象とした長寿犬・長寿猫表彰を行った。令和 4 年度は 96 病院、1,865 件の申し込みがあり、本会からの直接発送対応となった。

『動物のいのち救済基金』募金総額は 13,328,821 円（令和 5 年 3 月 31 日現在）であり、『動物のいのち救済基金』の活動の一つ「災害対策事業」として作成したペット防災 BOOK をインターネットにて継続して販売した。同じく『動物のいのち救済基金』を活用した活動のひとつである“高齢者の動物飼育支援事業”「飼い主とペット（犬猫）の年齢を足して 80 歳以上」においては、町田支部から申請があり「公益社団法人東京都獣医師会会員病院専用特別診療券（1,000 円券）」を提供した。『動物のいのち救済基金』に関する活動報告を行っているサポーターミーティングについては、COVID-19 拡大防止措置により、中止とした。

6-イ. ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業；

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、飼い猫や飼い主がいない猫の不妊去勢手術を実施した。

令和 4 年度の御蔵島からの猫の保護・譲渡実績は 2 頭であった。

7. 医療廃棄物等適正処理活動事業

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて、東京都医師会が主催する「医療廃棄物処理研修会」オンライン開催等の情報提供や知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

8. 身体障がい者支援活動事業

令和4年度においても、東京都福祉保健局を介して、身体障がい者補助犬使用者に対し、「ひかりの箱」募金を活用した「身体障がい者補助犬診療券」2万円×150頭分（300万円分）の交付を行い、補助犬の健康管理等診察支援を行った。東京都に予算化を要請していたが、対応がかなわないこともあり、急な変更により利用者に不利益がないよう令和5年度に関しては現状と同じ運用で実施し、令和6年度以降については、東京都福祉保健局を介さない新たな運用で実施することとしている。

例年「ひかりの箱募金」は2月末までに各支部にて取りまとめ、送金いただいていたが、各金融機関で「小銭取扱手数料」が必要になったことにより、募金額よりも小銭取扱手数料が高くなる事例も生じてしまう為、送金方法について協議をしていた。ゆうちょ銀行へ小銭取扱手数料免除申請を行っていたが、残念ながら承認を得られなかった。それゆえ、現在各支部の判断により、集まった募金を保管いただいている支部もあるが、早急に他の対応策を検討する必要がある。ちなみに、「ひかりの箱」の令和2年度募金額は2,032,808円（181件）であったが、上記のような要因により本部に着金した募金額は、令和3年度は397,182円（20件）、令和4年度では97,670円（7件）となっている。

9. 夜間診療活動及びマネジメント事業

夜間に状態が急変するなどしたペットの飼育者が本会ホームページの掲載情報により、電話相談や受診ができるよう、夜間診療対象動物病院の情報掲載と電話アナウンスによる飼育支援を行った。

10. 小笠原自然環境保護活動事業

小笠原諸島に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るために、本会会員の協力の下、ノネコ保護、獣医師派遣事業等を行っている。本事業の保護対象動物であるアカガシラカラスバトは順調にその個体数を回復し、一時壊滅したカツオドリの営巣地でも巣立ちが確認され、地道な取り組みが功を奏していることが確認されたが、母島などに生息している、日本固有種のオガサワラカワラヒワの生息数が400個体以下と絶滅の危険性が高くなっていることが明らかになった。その為、母島でのノネコの捕獲を強化する必要性が指摘されており、本会においても、これまでと同様にノネコの引き受け・譲渡を推進した。

10-ア. 保護されたノネコの保護活動事業；

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種、繁殖地の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施した（令和4年度37頭、累計捕獲頭数1,140頭うち都内搬送頭数1,035頭）。

東京都からの委託事業「ノネコ搬送に伴う感染症対策等委託」について、1頭9,000円（100頭）であったが、都に対し適正な費用弁済を求める交渉を続けた結果、令和4年度から13,000円（100頭）に増額となり、さらに令和5年度から67,000円に増額することが決定した。

10-イ. 小笠原諸島現地視察活動事業；

小笠原村からの依頼により、令和4年10月19日から30日に、6年ぶりに小笠原への派遣診療を実施した。犬猫の不妊手術、島民への適正飼育指導と共に、ノネコ対策の現地視察と協議会メンバーとの顔合わせを行った。具体的には、母島にてノネコの捕獲現場と海鳥の繁殖地視察、父島にてノネコの捕獲対策現場視察とアカガシラカラスバト探索、同じく、父島にて「ねこまち」（IBO：小笠原自然文化研究所の管理施設）を視察した。

10-ウ. シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業；

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。

11. 傷病野生鳥獣保護活動事業

東京都の委託を受け、都民によって動物病院に持ち込まれた傷病野生鳥獣について救護、施療活動を実施した動物病院に治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

令和4年度実績は112件であった。一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等76件については、動物の命の大切さから、保護、治療を本会からの助成により実施した。なお、令和4年度からは、委託対象外鳥獣において、カラス（ハシボソガラス、ハシブトガラス）、ドバト、ひな、幼獣、ペット及び外来種に加え、ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、タヌキ、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、カワウが追加された。

また、治療後死亡した53件については、会員病院での検案の後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との協定に基づき埋葬した。

さらに、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

12. 学会・講習会活動事業

獣医師として最新の専門技術と知識や情報を得ることで研鑽を払い、常に適切なる獣医療の提供に努めていかなければならない。令和4年度獣医師育成対策委託事業においては、適正な獣医療を安定的に提供するためには、法令遵守のもと、正確な情報を飼養者に伝える必要があることから、小動物獣医療向上対策講習会「獣医療広告の理解と活用のための解説セミナー」というタイトルで、「獣医療に関する広告の制限及びその適正化のための監視指導に関する指針（獣医療広告ガイドライン）」（農林水産省）の内容及や実際のNG事例を説明した動画を作成し、獣医師向けウェブサイトおよび一般向け動画サイト（YouTube など）を使い広く一般に公開した。

【内容】

Part1 ご存じですか？動物病院の広告ガイドライン「これってどうなの？」を聞いてみる
～獣医療広告の理解と活用のための解説～ 講師：弁護士 田村勇人

Part2 ご存じですか？動物病院の広告ガイドライン「これってどうなの？」を聞いてみる
～現場の疑問に専門家が答える～ 講師：弁護士 田村勇人 獣医師 富田夏子

また、委員会と講演会の内容をまとめ、小冊子（リーフレット）を作成し、都内診療施設1,885カ所に送付した。

- (1) 三学会活動；関東・東京地区合同獣医師会大会・学会は、9月4日（日）神奈川県海老名市のレンブラントホテル海老名において開催された。一昨年は中止、昨年はオンラインでの開催であった為、3年ぶりの対面形式となり、約500名が参加した。本会会員からは、小動物学会に9演題、産業動物学会には1演題の発表があり、小動物獣医学会Bにおいて、森淳和先生（中央支部A会員 ONE for Animals 東京）の演題名「観血的整復を行ったトイ・プードルの肩甲骨背側脱臼症例」が、学術奨励賞を受賞した。
- (2) 学術国際交流活動；COVID-19の流行対策により、第12回アジア小動物獣医師会大会（FASAVA）2022への参加は見合わせた。
- (3) 日本獣医師会による講習会；COVID-19対策により、令和4年度は実施せず。
- (4) 支部学術講習会；COVID-19対策により、令和4年度は実施せず。

13. 広報活動事業；

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

- (1) 東獣ホームページの充実；関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報等を本会ホームページ、ポータルサイト等に掲載するなどして、ウェブサイトの開示、構築を図った。
- (2) 機関紙（東獣ジャーナル）の発行；公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの年4回刊行（紙媒体1月、7月とWeb媒体4月、10月）し、掲載情報の充実に努めた。

また、時流に即した特集を企画し、より読みやすい誌面とするように図るとともに、PC等で閲覧できるようにWeb版を作成した。

【特集】

- No.603（2022.4）多様な顔を持つ獣医師たち 臨床にとらわれない自由な働き方
- No.604（2022.7）野生動物との付き合い方
- No.605（2022.10）看護師国家資格化。現場はどう向き合うのか
- No.606（2023.1）上野新会長に聞く「獣医師会のビジョン」

14. 家畜衛生防疫対策事業

令和4年度産業動物委員会を3月24（金）に開催し、家畜衛生及び産業動物獣医師をめぐる近年の情勢、産業動物獣医師確保対策についての情報・意見交換を行った。

15. 医療事故防止セミナー開催事業

獣医師育成対策事業（都委託）において、「獣医療に関する広告の制限及びその適正化のための監視指導に関する指針（獣医療広告ガイドライン）」（農林水産省）の内容や実際のNG事例を説明した「獣医療広告の理解と活用のための解説セミナー」を開催した。

II. 収益事業及びその他の事業

（1）不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

（2）福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

1) 共済給付

①弔慰金 13件 ②傷病見舞金 3名 4回 ③災害見舞金(コロナ見舞金) 13件

2) 旅行保険の加入 なし

3) 無受給退会者への記念品贈呈 4件

（3）入会促進（組織率向上対策）

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師（非会員）等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努めた。本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を配布し、入会を促進した。

また令和5年3月9日の日本獣医生命科学大学令和4年度学位記授与式、令和5年3月24日の東京農工大学共同獣医学科令和4年度謝恩会に上野会長が出席し、獣医学科優等卒業生を表彰し、併せて獣医師会の活動等に関する情報提供を行い、入会促進を行った。

新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章（会員プレート）を交付するとともに、関係法令の遵守、獣医療倫理、獣医療過誤防止とインフォームドコンセントの徹底、適切なカルテの記述、適切な広告のあり方等を周知し、飼い主から信頼される質の高い適切な獣医療の体制の確保に努めた。

また、賛助会員91社の協力を得て、本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介や、高齢会員の長寿を祝し、敬老の日に記念品の贈呈を行うなど、会員特典の充実に積極的に取り組んできた。

賛助会員等の協力を得て、以下の会員向けセミナーを実施した。

SOMPO ひまわり生命株式会社

1. 資産運用セミナー「インフレに打ち勝つ資産形成の基本～豊かな老後を迎えるために」

- ・資産形成の基本的な考え方を学びたい方
- ・資産形成・資産運用がうまくいっていない方
- ・投資信託の仕組みを分かりやすく学びたい方
- ・積立投資・一括投資の勘どころを知りたい方
- ・NISA や iDeCo に興味がある方 向け

【開催日】8月24日（水） 13:30～14:30

【録画配信】8月27日（土） 13:30～14:30

2. 「家族が認知症になる前、争続になる前にやっておくべきこと」

2025年には65歳以上の5人に1人程度が認知症有病者になると推測され、その認知症の方が保有する金融資産は2030年には約215兆円になり、日本の金融資産の1割ほどが、認知症の方の資産になると考えられる。認知症になるとどういった問題が起こるのかを専門家が丁寧に解説した。

【動画視聴期間】8月7日（日）10:00 ～ 8月21日（日）17:00 まで

（4）その他、予防接種証明書等販売事業

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

（5）事務受託事業

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入等の斡旋業務等を行った。